薬の窓口 No. 253　　岡山大学病院薬剤部　薬品情報室発行　　平成 27 年 4 月 1 日

赤ちゃんや小さなお子さんは、病気に対する抵抗力(免疫)が大変未熟なため、病気に罹ってしまうと、重い後遺症が残ったり、命が脅かされる可能性があります。

そこで今回は、『予防接種』についてお話ししたいと思います。

●VPD って何？

『ワクチンで防げる病気(Vaccine＝ワクチン、Preventable＝防げる、Diseases＝病気)』のことを「VPD」といい、子どもたちの健康や命にかかわる大きな問題となっています。VPD の中でも、子どもたちが罹りやすいものには次のようなものがあります。

ワクチンで防げる主な病気

- B型肝炎
- ロタウイルス感染症(胃腸炎)
- ヒブ感染症
- 肺炎球菌感染症
- ジフテリア
- 破傷風(はしょうふう)
- 百日せき
- ポリオ
- 結核
- 麻しん(はしか)
- 風しん
- おたふくかぜ
- みずぼうそう
- 日本脳炎
- インフルエンザ
- ヒトパピローマウイルス感染症
- A型肝炎
- 黄熱病
- 狂犬病
- 髄膜炎菌感染症

日本で子どもがワクチンを接種できる病気

日本では、毎年多くの子どもたちが、これらのワクチンで予防できるはずの病気に感染して苦しんだり、亡くなったりしているのが現状です。

●ワクチンってどのようなものですか？

病気を起こすウイルスや細菌などの免疫をつける性質は残しながらも、安全に使用できるよう病気を起こす力(病原性、毒性)を弱めたり、完全になくしたものを「ワクチン」といいます。

ワクチンを接種することで、体に大きな負担をかけることなく、安全に免疫をつけることができるので、病気に罹らないためにもワクチンの接種が大切になってきます。

●ワクチンの種類は？

ワクチンは、『生ワクチン』『不活化ワクチン』『トキソイド』の 3 種類に分類されます。

◆生ワクチン **[該当ワクチン：BCG、おたふくかぜ、みずぼうそう等]**

生きたウイルスや細菌などの毒性を十分に弱めたワクチンで、体に入れても病気の症状が出現しにくく、1 回の接種でも十分な免疫をつけることができます。

◆不活化ワクチン **[該当ワクチン：日本脳炎、インフルエンザ等]**

ウイルスや細菌などの毒性を完全になくし、免疫をつけるのに必要な成分だけをワクチンにしたもので、生ワクチンよりも安全に免疫をつけることができます。

◆トキソイド **[該当ワクチン：ジフテリア、破傷風等]**

不活化ワクチンの一種で、細菌の出す毒素の毒性をなくし、免疫をつける働きだけを残したものです。

●ワクチンに副作用(副反応)はないの？

ワクチンは、安全な医薬品の 1 つですが、副反応が起こる可能性があります。副反応が現われたとしても、ほとんどの場合は軽症(腫れや赤み)ですみますが、稀に血圧が下がり救急処置が必要になるアナフィラキシーショックが出ることもあります。

定期接種や任意接種ワクチンを接種して、ワクチンの副反応による健康被害が発生した場合、国の定めた救済措置を受けることができます。

●定期接種と任意接種って何？

日本で受けられる予防接種には、「予防接種法」に定められている『定期接種』とそれ以外の『任意接種』があります。定期接種ワクチンは、定められた期間内であれば公費(原則無料)で接種が受けられますが、任意接種ワクチンは、多くの場合が全額自己負担(有料)か、または一部公費助成が受けられます。

近年では、定期接種ワクチンのみ受けておけば大丈夫と考えている方が少なくありません。VPD に罹ってしまうと、本人がつらいだけでなく、家族にも大きな負担がかかる可能性があるため、任意接種ワクチンも積極的に接種することをお薦めします。

●ワクチン接種スケジュールを立てるポイントは？

現在、日本の子どもたちが受けられるワクチンには多くの種類があり、ワクチンに応じて接種する年齢や回数などが決められています。

子どもたちを VPD から守るためには、適切なタイミングでワクチンを接種することが重要になります。ワクチンによって接種する年齢や回数などが異なるので、予防接種カレンダーを参考に医師と相談のうえ、ワクチン接種スケジュールを立てるようにしましょう。

■ 予防接種カレンダー

(平成26年10月現在)

種類	ワクチン	受ける回数	標準的な時期	乳児期 2カ月	3カ月	4カ月	5カ月	6カ月	7カ月	8カ月	9カ月	10カ月	11カ月	幼児期 12カ月	15カ月	18カ月	19カ月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童期 7歳	8歳	9歳	10歳以上	
定期接種	四種混合(DPT-IPV) ジフテリア:D 百日せき:P 破傷風:T ポリオ:IPV	計4回／1回～3回の間はそれぞれ20～56日(3～8週間)あける 3回目の後は1年～1年6か月後に1回接種	生後3か月～1歳に最初の3回を		①	②	③									④											
定期接種	二種混合(DT)	1回	11歳																							①	2期:11～12歳
定期接種	BCG	1回	生後5～8か月未満				①																				
定期接種	麻しん・風しん(MR)	2回／1回目は1歳以上2歳未満、2回目は5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間	**1歳になったらできるだけ早く受けましょう！**												①						②						
定期接種	日本脳炎	1期:6日～28日間隔で2回	3歳															①	③						④		
定期接種		1期追加:初回終了後、おおむね1年後に1回	4歳															②							2期:9～12歳		
定期接種		2期:1回	9歳																								
定期接種	インフルエンザ菌b型(Hib)	計4回／初回は27～56日間隔で3回、その後7～13か月おいて追加1回	初回は生後2～7か月	①	②		③								④												
定期接種	小児用肺炎球菌	計4回／初回は27日以上の間隔で3回、その後60日以上おいて追加1回	初回は生後2～7か月	①	②	③									④												
定期接種	ヒトパピローマウイルス(HPV)	計3回＊女子のみ	13歳となる日の属する年度の初日～末日まで																								①②③
定期接種	水痘(水ぼうそう)	計2回/1～2歳2回(平成26年度のみ3～4歳1回)	初回は1歳～1歳3か月未満												①		②										(注)平成26年度に限り、3～4歳も定期接種として接種可能
任意接種	おたふくかぜ	1回 保育所など集団生活に入る子は早めに受けるとよいでしょう													①							(②)					(注)予防効果を確実にするために2回接種
任意接種	B型肝炎(HBV)	3回(生後2、3、5か月) 母親がB型肝炎キャリア(保因者)の場合、健康保険で接種可		①	②			③																			
任意接種	インフルエンザ	13歳未満は2回(2～4週間隔)													毎年①②(10月、11月などに)												①13歳からは1回
任意接種	ロタウイルス	1価(2回接種)と5価(3回接種)の2種類、いずれも1回目は生後14週+6日までが推奨		①	②	③	1価は生後24週未満まで、5価は生後32週未満までに完了する																				

●予防接種のくわしい情報は国立感染症研究所／予防接種スケジュール http://www.nih.go.jp/niid/ja/schedule.html
●任意接種については日本小児科学会「日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール」を参照
http://www.jpeds.or.jp/modules/general/index.php?content_id=9

■ は望ましい時期の例。①②などの数字はワクチンの種類毎に接種の回数を示しています。実際に接種する予防接種とスケジュールについては、市区町村の予防接種担当窓口、かかりつけ小児科医に相談しましょう。予防接種は法令等で変更になることがあります。

＜参考＞

お母さんのためのワクチン接種ガイド

KNOW★VPD! VPD を知って、子どもを守ろう。(http://www.know-vpd.jp/)

赤ちゃん&子育てインフォ(http://www.mcfh.or.jp/jouhou/yobousessyu/2.html)